

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ふるさとの家「城下」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県島原市新湊2丁目丙1830番地
記入者名 (管理者)	澤田 ハツセ
記入日	平成 19 年 11 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の運営理念「老いても 障害を持っても当たり前に分らしく 普通に暮らしたい」を基本理念とし、入居者それぞれの生活史を スタッフ全員が把握し、その人がその人らしく地域の中で暮らし続けることを支えている。		この理念に基づき、これからも利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員は理念を共有し、理念の実践に向け日々取り組んでいる。また、全ての職員で介護理念を作り上げ実践にむけ取り組んでいる。		理念を毎日読み、全職員が利用者一人ひとりの生活史など把握し、ミーティングを重ねながらその人にふさわしい暮らし方を支援しようと努力している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	誰デモが見える場所に掲示している。家族には、利用前の見学時や利用契約時に書面や口頭にて伝え、推進会議などでも伝え理解していただけるよう努めている。		家族には理解してもらえていると思うが地域の方々にもっと理解してもらえるような取り組みを工夫して行けたら良いと思う。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶は積極的に行っている。又隣近所の方もかけてくださる。頂き物はおすそ分けしたり、中元、お歳暮なども入居者と一緒に配り、馴染みの関係を作り、気軽に声をかけ合える様、努めている。		今後も隣近所の行事等には入居者と共に参加し、馴染みの関係を作ることに心がけ、気軽に声をかけ合える様努めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、自治会などには入居者と共に参加させていただいている。また、ホームの行事にも参加していただき、地元の人々との交流に努めている。		地域の催し物への参加を積極的に行い、ホームの行事にも今以上に多くの方が参加して下さるよう努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	音楽祭や、祭りなどには必ず地域の高齢者にも声をかけ参加して頂いている。		今後も機会あるごとに、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を重んじ、評価の内容をスタッフ全員が把握し、職員会議や勉強会を行い話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		指摘されたことは、職員全員で話し合い、改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる。今後も続けて取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の動向、行事やサービスの取り組みなどを報告し、それに対する活発な意見を出していただきサービス向上に活かしている。		推進員の方にも大変良い意見を出していただきありがとうございます。その意見を基にサービス向上に活かしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に訪問したり、電話などで連絡を取り合っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、必要性のある入居者が居られたら、関係者と話し合い、活用できるよう支援している。現在使用している方も居られるし、過去にも居られた。		今後も入居者の状態に応じ、活用の必要な方においては、関係者と話し合い、支援していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員会議で話し合い、職員同士で注意しあいながら虐待が見過ごされることの無い様、防止に努めている。		今後も全ての職員が、細心の注意を払い、防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の見学を支援したり、契約時は重要事項説明書の十分な説明を行い、利用者や家族の不安、疑問点を尋ね、十分な話し合いを持ち、理解、納得してもらい、契約及び解約をしている。</p>	<p>十分な説明は行っているが、これからも必要なときは十分な説明を行っていききたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意思疎通のできる利用者には機会あるごとに声かけをし、意見、不満、苦情を聞くようにしている。又、重度の利用者に関しては、家族の面会時などで意見を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>利用者や、家族が意見を言いやすい場面を作っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一回の手紙や、状態急変時には、その都度電話連絡し、報告している。又、支援経過報告書に記録を残すようにしている。</p>	<p>毎月の手紙や、電話連絡は続けていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、電話連絡時に、意見、不満、苦情を聞いたり、意見箱を設け、意見、不満、苦情を出していただき運営に反映させている。</p>	<p>意見、不満、苦情が出た場合には、話し合いを儲け、運営に反映させていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の毎月のショートミーティングの中で、意見や、提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>今後も機会あるごとに意見や、提案を聞き、反映させていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>携帯電話により、連絡を取り、状況に応じた職員の確保は出来るようにしている。又、職員もそのことに関してjは、理解、納得している。</p>	<p>今まで通り、これからも柔軟な対応に向けた勤務調整に努めたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職においては、幾度も当人と話し合いを持たれ、アドバイスや、チャンスを下さり、前向きに考えられるような努力をしてくださる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて育成する為の計画を立ててくださり、法人内外の研修を受ける機会を与えてくださり、その場その場で指導して下さる。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スポーツ交流会や、研修会などに参加する機会を作ってください。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会や、施設の大きな行事の後には、反省会(お茶会)を開いてくださり、職員が楽しく語らい明日への活力が湧くような取り組みをして下さる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	多忙な中でも常に職員のことには気をかけてくださり、向上心を持って働けるような声かけやアドバイスを下さる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	コミュニケーションを取ることに困っていること、不安なこと求めていることなどを、本人自身からよく聞くよう心がけ、信頼関係を築くように努めている。		コミュニケーションを多く取るように努力し、早く築けるよう心掛けたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時によく話を聞くように努めている。また、それを職員全員で話し合い、受け止め、支援につなげるよう努力している。		十分にお話を聞き、分からないことは、どんな小さなことでも尋ねて頂き、安心して利用して下さるよう努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や、家族より要望、希望を十分に聞き、職員間でも話し合いを持ち、支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		要望希望を十分に聞き、必要としている支援が見極められるよう、対応に努めていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や、見学していただき、家族とも相談しながら徐々になじめるように工夫している。		今後も、体験入居者見学をして頂き、家族とも相談しながら徐々に馴染める様努力していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と共有する生活を共にし、人生の先輩である入居者から学び、日々楽しく過ごし、支えあう関係を築いている。		今後も今以上に一緒に過ごしながら入居者から学んだり、支えあう関係を築いていく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに、家族とコミュニケーションを取り、信頼関係を築き、一緒に本人を支えていくよう努めている。		連絡を密にし、家族と共に支えあう関係を築いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族だけでの話し場を設けている。また、本人と家族の関係が途絶えないよう時には自宅への電話支援をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住まれていた場所や、自宅の仏様参りなど支援している。		懐かしい場所への支援は続けていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り、関わることでより利用者が孤立せず、支えあえるよう努めている。		利用者を一人にすること無く、職員が間に入り関わるよう努力し、利用者全体が仲良く暮らしていけるよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームのイベントに招待したり、気軽に遊びに来て頂いたりしている。		ホームの行事に招待し、気軽に遊びに来て頂けるよう努めていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思伝達が可能な方には、本人より、希望、意向を聞き、把握に努め、困難な方には、家族の意向を取り入れ、本人本位に検討している。		よいケアをするには、大切なことであり、今まで通り、今後も取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の基本情報I～ を記入し、それにより、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方など把握に努めサービス利用の経過などは介護情報提供書により把握している。		センター方式により、これまでの暮らしの把握は出来ている。又、サービス利用の経過も介護、及び、医療情報提供書で把握するよう努める。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	モニタリングや、アセスメントにて、現状を総合的に把握するよう努めている。		今後のケアに重要なので取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を取り入れ、ケア会議で話し合い、より良く暮らして頂けるような介護計画を作成し、ケアを提供している。		全ての職員で話し合い、意思伝達のできる方については、本人の意見を聞き、そうでない方に関しては、御家族様より意見を聞き介護計画を作成していく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に限らず、利用者の心身体調の変化に応じて、見直し、必要な関係者と検討を行い、現状に即した新たな計画を作成している。		利用者の状態に応じた見直し、検討を行い、現状に即した新たな介護計画を作成していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応した職員が日々の様子や体調の変化、気づき等を個別に記録し、全ての職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直し活かしている。		今まで通り、ケアの実践、結果気づきや工夫も記録しキーワードに沿った統一したケアを実践できるよう心掛けていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じた柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	急変時や必要に応じて民生委員、ボランティア、警察、消防、その他関係機関などと協力しながら支援している。		今後も地域資源との協働は大切な為協力しながら支援していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態に応じて、必要なられた方には、他のサービス活用の支援も行っている。		今まで通り本人の意向や必要性に応じて支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は出来ている。現在、権利擁護を利用されている方も居られる。		今後も必要に応じて、取り組みたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に定期的受診を支援している。又、かかりつけ医を持たない方に関しては、本人、家族と十分に話し合いかかりつけ医を決定し、支援している。		今まで通り、かかりつけ医の受診が出来るよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に協力医になって頂いている。又、利用者の状態に変化があったときは、電話で相談に乗って戴いたり、受診し相談したりしている。		今まで通り専門医の先生と相談しながら支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護職員には常に利用者の状態を伝え、把握してもらっている。又、急変時には即、相談し、対応してもらい、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も密に連絡を取り利用者が毎日を健康で過ごされるよう協働体制にて支援していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞うことで利用者に安心感を持って貰い、病院関係者ともホームでの状態などを伝え情報の交換に努めている。		医療との連携に努め、利用者の安心した生活に備える。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に謳っている為、入所時に説明し本人、家族の意向は把握している。又、かかりつけ医等にも本人、家族の意向を伝えながら話し合い、全員で方針を共有している。		重度化や終末期の支援は以前実践したこともあり、全職員が共有している。本人、家族の希望があれば満足していただけるケアを支援していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が不安なく終末期をむかえられるよう常に家族、かかりつけ医と相談しながら支援している。		今後も、かかりつけ医、代表、全職員で話し合いながら支援に取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者間との十分な話し合いや、介護情報提供書で情報交換を行いダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは十分注意を払っている。また記録等の個人情報は、所定の場所に管理しており外部に漏れないようプライバシーの確保に努めている。	今後、十分に気をつけて支援に取り組む
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人の状態に応じた十分な声かけや、説明を行い、それぞれが思いや、希望を表せるような支援をしている。	常に一人、一人に合ったコミュニケーションを実践していく。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護理念にも謳っており、利用者一人一人のペースを大事に、全ての職員が声かけ合い、一人ひとりが毎日を楽しみ希望を持って過ごせるよう支援している。	一人ひとりの希望に沿った支援をしていけるよう努力していく
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の好みの服装や色合いを全ての職員が把握し、その人らしい身だしなみの支援をしている。また、理容・美容に関しても希望される方は行かされている。	利用者の希望に沿った支援をしていく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューを取り入れたり、食材切りや皮むきなど職員と一緒に、食事時は献立を話題にし楽しく食事ができるよう努めている。	これからも利用者の希望や要望を取り入れ、利用者と職員が楽しく一緒に食事できるよう支援していく。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べたい物や飲み物の要望など、認めながら状況に合わせて支援している。毎日就寝前に養命酒を飲まれている方もいる。	食べたり、飲んだりする事が、楽しみの一つであるようなので、今後も日常的に楽しめるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼間は綿パンツにし、排泄パターンを全ての職員が把握し、早めのトイレ誘導を行うよう心掛けている。また、排泄後は、洗浄や清拭を支援し清潔保持を心掛けている。		排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導を支援し、気持ちよく過ごされるよう支援していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴の準備はしている。一人ひとりの状態により、早朝、午前、午後に支援している。		入居者の希望やタイミングに合わせて支援していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や生活習慣に応じて支援している。		利用者の状況に応じた支援をしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を全ての職員が把握し、できる事を役割としてもらい、できないことを押し付けず、常に感謝の気持ちを伝え、自身を持ち楽しみながらされるよう支援している。		利用者が日々を楽しく、自分らしく過ごして下さるよう、それぞれの力を活かしながら、喜びを持ち、生活できるような支援を考えていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金は預からないようにしているが、所持されている方に関しては、管理のできる方は本人にして貰い、そうでない方は職員が管理している。		一部の方は所持され使用されているが、使いすぎなど、注意深く見守り、支援していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、買物、ドライブに出かけている。また、ドライブの行き先等は利用者へに訊ね希望を取っている。		リハビリや五感を刺激するためにも、今後も毎日続けて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、小旅行や遠方への花見など計画し、家族にも呼びかけ、家族とともに出かけられる機会を作り支援している。		喜んでいただいているので今後も支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		希望される方に関しては支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるよう玄関や害鄭などには家庭的な雰囲気が出せるよう季節の花を植え、全ての職員が笑顔で接し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		全職員が笑顔で接し、気軽に訪問して頂き、居心地良く過ごせる工夫を心掛ける。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項やマニュアルにも謳い、全ての職員がその意味を把握し、声かけ合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		全職員がお互いに声をかけ合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外はかけていない為、職員間で声をかけ合い一人ひとりの所在確認を徹底するようにしている。		今後も取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子の把握に努め、安全に過ごしていただける支援をしている。		今後も今まで以上に利用者の安全確認に取り組み、本人・ご家族にも安心してもらえるよう心掛けていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態や能力に応じて危険と判断した物に関しては、保管・管理に努めている。また、刃物の確認は毎日行っている。		今後も注意していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	見守り厳守及び職員間の声かけにより事故防止に取り組み、火災においては防火自主点検項目表を作り、毎月、職員が交代でチェックし不備な点はミーティングで話し合い、防火管理者の指導を受けている。		今後も十分に有意を払い、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修に参加したり、応急手当の基礎知識などのマニュアルを参考にし、勉強しているので簡単な手当では全ての職員ができる。		定期的な訓練を取り組み、急変や事故発生時に備える。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は、地域の消防団の方や近隣住民の方々にも協力を頂いている。また、ホーム独自でも避難訓練を行い、利用者の安全を守れるよう取り組んでいる。		避難訓練は身体で覚えることができるので続け、利用者を安全に守りたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や月1回のお便りの際、家族には伝え、対応策を話し合っている。		その都度伝え、対応を検討していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に見守り厳守することにより、体調の変化や異変の発見に努めている。また、口頭や連絡帳にて全ての職員が情報を共有し、対応に結び付けている。		今後も見守りを十分に行い、利用者の体調を見逃すことなく把握し、早期発見に努め、申し送りや連絡帳をフルに活用し、対応に結び付けていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬管理表にて全ての職員が、一人一人の使用している薬の目的や副作用、用法について理解できている。また、薬は職員が管理し、服用時に渡し、服用を確認している。		服薬管理表の確認や、薬の効能や副作用等も把握し、危険のないよう支援に努めていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、乳製品を毎食使い、水分補給にも努めている。毎日の体操も取り入れている。		排便表にて、排便の把握に努め、便秘の予防に努めたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの力に応じ、全員の方を支援している。また、週1回程度、義歯はポリデント消毒をしている。		利用者の力に応じた支援をしている。また、週1～2回はポリデント消毒を続けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体力のある人、そうでない人、体格に良い人、細身の人、また、糖尿病等の持病のある人等、全ての職員が一人ひとりの状態や力を把握し支援している。		一人の状態や力、習慣に応じた支援をこれからも続ける。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	項目ごとに各場所に掲示しており、職員会議でも毎回話し合い、全ての職員が熟知し、実行している。		手洗い、うがい、日光浴等実践していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮な内に使い切る。料理は作りすぎないように心がけ、翌日まで残さない。また、衛生管理表をチェックし、衛生管理に努めている。		食材は新鮮な内に使い切る。作りすぎない、買いすぎない、翌日まで残さないを徹底し、衛生管理表をチェックし確認する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体が民家であり、誰もが出入りしやすい雰囲気がある。玄関先や外庭には季節の花を植え、下駄箱にも花を飾り親しみがある。入り口には手作りの看板があり、親しみやすい。		玄関や建物の周囲には、利用者と季節の花を植え、普通の家庭的な親しみのある家作りを工夫して行きたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が民家なので家庭的な間取りになっている為、ごく自然な雰囲気がある。また、季節の花を飾ったり、手作りカレンダーや写真を貼ったりして生活感や季節感を取り入れ工夫している。		現在も工夫はしているが、これからも工夫を続けて行きたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子に座りたい方、横になりたい方、自室にてゆっくり過ごしたい方と利用者が思い思いに過ごされている。外庭の椅子に座り、日光浴される方もおられる。		利用者の居場所を決め付けるのではなく、利用者が思い思いに過ごされるよう工夫して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるよう工夫 している	見学時、本人、家族には居室を見ていただき決めている。また、使い慣れた家具や寝具は持ち込まれる方もおられ、居心地良く過ごしていただくよう支援している。		今後も本人や家族と相談しながら、居心地良く過ごしていただけるよう取り組んでいく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	室内は毎日、朝から窓を開け、空気の入替えを行って いる。湿度調節は温度計や湿度計を見ながら適宜に行 うようにしている。		不快な思いをさせないよう、今後も取り組んでいく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	要所要所には手すりを設け、車椅子でも玄関を上り下り できるよう設置用の板を準備し、身体機能を活かした 工夫をしている。		今後も利用者が、安全に安心して過ごされるよう、利用者の身体機能に合わせた工夫を取り入れていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫して いる	居室やトイレ等には目印や名札をつけ利用者の力を活 かし、安心、自立して暮らせるような工夫をして いる。		今後も利用者の力を出せ、自立して暮らせるような環境作りの取り組みに心掛けたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しん だり、活動できるように活かしている	外庭には椅子を置き、いつでも自由に使うように している。また、日光浴や昼食会、ぞうり作りや裁縫 などにも活かしている。		今後も広い庭の活用を検討し、利用者が思い思いに利用していただけるよう取り組んでいきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・建物自体が古く昔ながらの家なので、利用者の方が落ち着かれ、生き生きと生活されている。
- ・入居者には職員の誰かが関わり、孤立感を持たせないように心掛けている。
- ・入居者の立場に立ち、全ての職員が笑顔を絶やさず手出し、口出しせず、寄り添い、自立に向けた支援を心掛けている。
- ・毎日ドライブに出かけ五感への働きかけを支援している。
- ・食材は、常に新鮮なものを使用し、作りすぎないように心がけ、衛生管理表のチェックを欠かさず、手洗い、うがい等施行し、食中毒防止に努めている。